

J A たまな青壮年部活動報告

J A たまな青壮年部は、鎌田英伸部長を中心に、6支部240名で活動を行っています。今年度から新体制となり新たな気持ちで活動に取り組んでいます。近年の主な活動をご紹介します。

■ KONKATSU ■

青壮年部独身盟友を対象に、「独身女性との出会いを提供すること」を目的に、婚活を実施しています。平成23年からたまな青壮年部独自に企画。梨狩りやイチゴ狩り、バスツアーなどを取り入れた内容で、合計5回行ってきました。

現在、数組のカップルが誕生しています。今後も独身メンバーにいい出会いを提供できるように、広く広報活動を行い参加募集や時代にあった企画を考え、更に充実した活動についていきたいと思っております。



▲女性募集を行うスタッフ (KABサテラ)

■ 食農教育活動 ■

〈ポスターコンクール〉

たまな青壮年部では、管内の小学6年生を対象に「わが町農産物PRポスターコンクール」を実施しています。これは、ポスターを描くことで地域の農産物の魅力を理解してもらうことを目的に実施しています。

今年度で8回目になるこのコンクールは、毎年1,000点以上の作品が寄せられます。その中から、支部審査と本部審査を経て選ばれた33点の入賞作品は、ホームページや広報誌に掲載する他、地元新玉名駅等に展示を行っています。



▲入賞作品展示 (新玉名駅玄関口)

〈J A たまな親子わくわく体験 農園への参画〉

J A が主催する農業体験活

動に、スタッフとして参画しています。管内の小学生の親子(約30家族130名)を対象に、苗の植え付けや収穫指導を行ったり、運営のサポートとして交通誘導なども行っています。また、「無人ヘリコプター見学」や「大型機械作業見学」、「旬の作物の収穫体験」等を青壮年部が提案し、活動に取り入れてきました。青壮年部の他にも、女性部・大学生・高校生もスタッフとして参加するなど、地域と密着した活動になっています。



▲田植え後の青壮年部スタッフ

〈管内小学校への授業〉

管内の小学校へ出向き、食農教育授業を行っています。作物ごとにわかれ、小学生が農業や農産物について疑問に思っている質問等に答えま

す。また、青壮年部からは、農産物を生産する上での作業のやり方・農作物に対する気持ちなどを小学生に伝えています。この活動を通じて、将来、「地元農産物・農業の応援団」ファ

ン」になって欲しいと願っています。

今後もJ A と協力し、食育活動を行っていききたいと思



▲作物ごとに授業

■ 学習会 ■

メンバーの新たな知識の取得等を目指して、様々な学習会を実施しています。

昨年は、地元国会議員の先生及び農林水産省の職員をお招きして、現地視察・講演会を実施しました。

現地視察では、果樹園地の鳥害虫被害状況や園芸ハウスの施設を視察。貴重な機会の為、多数のメンバーも現地に集まり説明を行いました。講演会では、「農業を巡る情勢」と題してご講演頂き、メンバーの貴重な学習の場となりました。

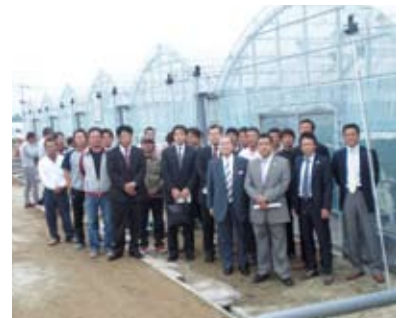
数か月後には、東京の農林水産省へ出向き、補助事業等の農業政策について学習することができました。今後も、メンバーで意見を出し合いながら学習会を実施していききたいと思

■ 各種団体との交流会 ■

「多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。」(青壮年部綱領)

各県の青壮年部や団体との交流を積極的に行っています。九州地区の青壮年部はもちろん、埼玉県や宮城県の青壮年部とも交流を行っています。作物は、違いますが、視察を受け入れたり、視察に行ったりと、多くの出会いから新たな可能性を目指しています。

地元の商工会青年部や青年会議所なども協議して、今年度は地元の花火大会でJ A シューの店を出展しました。



▲現地視察時の集合写真



▲さいたま青壮年部視察受け入れ